

編集後記

Journal of I-LISS Japan の創刊号をお届けします。この創刊号には、KLISS (Korean Library and Information Science Society : 韓国図書館情報学会) 会長である呉東根博士の“Library and Information Science Education and Research in Korea : Current Status and Prospect”及びそれに呼応する形で、私・大城善盛の“Library and Information Science Education in Japan : Current Status and Future Prospects”, 志保田務博士の“A Study of Library Policy in Japan : Current Status and Future Prospects”と「日本の図書館組織における専門職団体としての矜持とその溶解 (前編)」の4つの論文が掲載されています。

まず呉記念講演は、2017年8月に開かれた LISSASPAC (Library and Information Science Society for Asia and the Pacific : アジア太平洋図書館情報学会) の日本支部 (Japan Chapter) 結成セレモニーにおける記念講演の原稿です。韓国の図書館における膨大な統計データと SWOT 分析による要因分析結果を詳細に示すため、文章ではなくスライドのまま掲載しています。呉講演 (英文) が韓国の図書館界を扱っているのに対し、大城論文 (英文) は日本の図書館情報学教育について、これまでの司書・司書教諭養成制度に照らして課題と展望を論じています。志保田論文 (英文) は、2017年11月に行われた LISSASPAC と KLISS 共催の国際会議での基調講演をもとに、日本の図書館に関する法律と政策を概観し評価を加えて考察しています。もう1つの志保田論文は、2018年4月に行われた『日本図書館学の奔流 : 岩猿敏生著作集』の出版記念会での講演をもとにした、わが国の図書館専門職団体における矜持の内実と変容についての史的研究です。

LISSASPAC は、2018年秋に I-LISS (International Library and Information Science Society : 国際図書館情報学会) に改編されました。それを受けて、LISSASPAC Japan Chapter も2018年11月に I-LISS Japan Chapter に改編し、機関誌 : *Journal of LISSASPAC Japan* も *Journal of I-LISS Japan* へと名称変更し、巻号を一新しました。

I-LISS 及び I-LISS Japan の性格から、*Journal of I-LISS Japan* も *Journal of LISSASPAC Japan* の伝統を引き継ぎ、スタンスを日本に置きつつ国際的な視野に基づく図書館情報学研究の発表の場を目指しています。そのため論文には抄録を付けること (和文論文には和文抄録に英文抄録をも付すこと)、また英文の原稿も受領することとしており、そのどちらもネイティブ・スピーカーのチェックを義務付けています。さらには、学術的な質の維持・向上を目指して投稿原稿には僅かながら掲載料を課しています。会員のご理解を頂き、奮って投稿されることを期待しています。

(編集長 大城善盛)